

農学部・農学研究院

I	研究水準	研究 11-2
II	質の向上度	研究 11-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度、論文や著書の発表については、査読付き論文を500件近く発表しており、一名当たり2件以上である。著書・総説等は、平成19年度で150件以上ある。国際会議の発表数も平成19年度で200件を超えて、教員の学会賞や論文賞も10件を超えている。研究資金の獲得状況については、平成19年度で科学研究費補助金の採択が157件あり、総額6億5,849万円になっている。大型の研究費としては、学術創成研究1件、特定領域研究5件、基盤研究（A）9件、若手研究（A）1件となっている。共同研究は、80件を超え、研究費として総額3億円を超えている。また、受託研究も約80件であり、研究費総額は5億円弱となっていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、農学部・農学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、新農学生命科学領域における卓越した研究成果として、光合成のメカニズム、カビのゲノム解析、カイコの繭色の研究があり、高い評価を受けている。環境科学領域では、繊維素材の新利用法の開発が高い評価を受けている。アジア研究領域においては、アグリフードシステムの解析において優れた成果がある。食料学領域においては、食品の機能性解析で成果を上げており、緑茶カテキンの細胞膜受容体の同定研究は、卓越した成果として高い評価を受けている。また、過去4年間の研究成果によって、平成16年日本農学進歩賞、平成17年日本学術振興会賞や平成19年度文部科学大臣表彰若手科学者賞を受けていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、農学部・農学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部・農学研究院が想定している関係者の「期待される水準を

上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

